

2023年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名：島会議

活動名：モノづくりプロジェクト@島会議

★ 団体紹介（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

島会議は2022年7月に結成したモノづくりコミュニティです。メンバーは建築に関わらず教育や美術等、多種多様な専門の学生や社会人であり、広島県の瀬戸内海に位置する大崎下島久比地区を拠点に活動を行っています。久比地区は人口減少が進んでおり、お年寄りが多く、空き家の数も増加しているのが現状です。また、便利なものに囲まれ、モノづくりをする機会が減少してしまっている今その楽しさや喜びを得ることは非常に貴重な機会となっています。

そこで、島会議は空き家再生をしながら共創をテーマに過程そのものを楽しみ、モノづくりを実験することとしました。空き家再生だけでなくモノづくりワークショップや祭り等の活動を展開することで、モノづくりをテーマに人との繋がりや学びを構築することがこの活動の目的です。

また、この活動の主軸である空き家は島会議のメンバーの一人が所有しており、持ち主が活動主催者の一員であることによって活動に柔軟性を生み出し、時間にとらわれることのない創造的な活動を可能としています。島会議ではこれまで、「チャルメラ屋台製作」、「空き家改修即日設計(サウナ案)」、「納屋の解体」、「版築ワークショップ」、「感謝祭」を実施することができました。



↑久比の港の様子



↑島会議のテーマ“共創”



↑久比地区に広がるみかん畑の様子

★ 活動内容 (実施日、場所、目的、内容、参加人数等)

○2023年2月4日・5日 チャルメラ屋台製作 @大崎下島久比地区

近くの山で切り出した竹を用いて移動式屋台を制作し、近隣の住民の方にあいさつ回りを行いました。竹の太さや組み方など、その場にいる人のアイデアとチャレンジの積み重ねで屋台を作りました。完成した屋台を引きながらお茶を配り、近隣住民に自分たちの紹介をしたり、楽しくお話をしたりすることができました。



↑活動フライヤー



↑竹を山から切り出す様子



↑竹を組んでいる様子



↑単管ジョイントを用いて固定



↑住民との集合写真

○2023年5月13日・14日 サウナ構想 @大崎下島久比地区

「もしも、空き家をサウナにするなら」という構想の下、サウナの即日設計を行いました。3月に佐伯区にある minagarten で行ったアイデア出しを基に、現地で2日間に渡って実測やアイデア出しを繰り返し、案を作成しました。



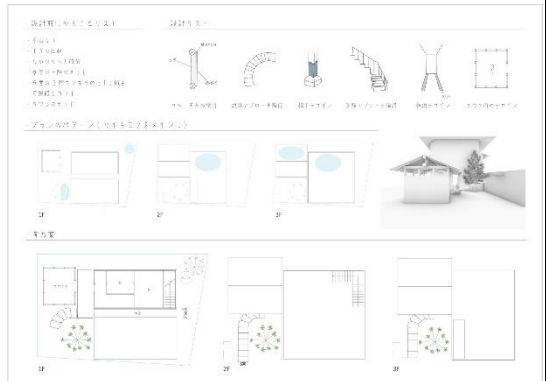
↑minagartenでの作戦会議



↑アイデア出しの様子



↑みんなでご飯を作る様子



↑完成した設計のプレゼンボード

○2023年8月17日～27日 サマーキャンプ @大崎下島久比地区

10日間のイベントを開催し、「納屋の解体」、「版築ワークショップ」、「感謝祭」を行いました。

①納屋の解体

空き家改修の一部である、納屋の壁を解体し、休憩スペースを作りました。壁の解体と柱の継木を大工さんと共に行い、風が通り抜ける居心地のよい休憩所となりました。



↑フライヤー



↑既存の様子



↑壁解体の様子



↑継木の様子

↑完成した休憩所でご飯を食べる様子

②版築ワークショップ

解体した壁の土を用いて、スツールを作成しました。今後の空き家改修の計画で、壁の改修に版築を用いることを検討しており、その実験としてまずはスツールづくりに挑戦しました。(版築とは、地域にある土、海水、石灰のシンプルな材料とたたき固めるという単純な工法のことです。)土壁を砕き、手作業でふるって砂に戻す作業を地道に行いました。



↑型枠製作



↑土壁を砕く様子



↑土壁を砂に戻す



↑たたき固める様子



↑スツールの断面

③感謝祭

サマーキャンプの最終日には感謝祭を行いました。お世話になった方への感謝と、事故や怪我無く行えたことに感謝するための祭りです。お祭りでは総勢50名ほどの来場があり、地域の方が「若者と何かすること」を楽しみにしている人が多いことに気がきました。成果発表と島での活動に何を期待しているのかをお話しました。また郷土料理であるうどん汁を地域の方に教わりながら作ってふるまいました。



↑地域の方と島会議の集合写真



↑成果発表の様子



↑郷土料理のうどん汁

★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

島会議の活動は、月に一度地域に足を運んで定期的に活動を行い、その様子を解像度を上げて発信することで魅力を届け、活動に興味のある者に対して久比地区へ来るきっかけをつくることができました。

また、ものづくりやその構想を練るワークショップの開催によって参加者同士で共創し、モノづくりを純粋に楽しむ機会を設けることができましたと思います。作らなければならない期限がない分、大人も子供もフラットに失敗を恐れず試行錯誤できる空気感が生まれ、モノをつくるという行為の楽しさと可能性が参加者に伝わっていたらうれしいです。また、自分たち自身もモノづくりを実際にする中で、思い描いていたものを実現するための過程や失敗、そのための改善案や準備を通して、自分たちで何かをつくることの大変さと、できたモノへの愛着を感じる貴重な機会となりました。

空き家の改修については、空き家の解体やそのあり方を提案し、この空き家にとっての新しい価値を示すことができ、空き家のイメージアップを図れたのではないかと思います。実際に、空き家を改修する過程では、近隣の住民の方が置いていたものを少しよけてくれるなどの協力をしてくださったり、作業中に犬の散歩をしている方が話しかけてくださったり、ミカンの差し入れをくださったりなど、たくさんの交流の場面がありました。

空き家は地域にとって日常の風景であり、そこに若者が地域を想って変化を加えることがプラスに働き、自然と人が注目してくれるようになるという感覚を実感することができました。

実際、サマーキャンプ最終日の感謝祭には 50 人近い地域の方々が来場され、人が集まれる場を求めている、若者が地域を想って行った行動に興味を示してくれているということが分かり、これまでの活動がつながっているようで大変うれしく感じました。

★ 苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

活動拠点である久比地区までには距離がありアクセスが容易でないため、学生の参加が難しく毎回のイベントで参加人数の確保に苦勞しました。また、参加メンバーは固定されておらず、興味のある人が参加できる方式を取っていたため、活動回があいてからの参加がしにくい点が課題でした。そのため、なるべく詳細な情報を SNS に上げるなどして途中からの参加がしやすいように工夫しました。

また、空き家の現状を踏まえて活動の構想を練ることに苦勞しました。対象としている空き家は、約築 70 年であり、建物の傾きが懸念点でした。メンバーではその状態を判断することができなかつたため、構造についての知見を求めて大学の専門家に依頼し、協力をさせていただけることになりました。

そのため今後の課題としては、空き家の母屋の活用についてです。現在、納屋のみの改修を行い、母屋はまだ手つかずとなっています。補強を行う、負担のかからない範囲の工事を行う等、改修方法を検討する他、どのようなバにしていけるかをやりながら考えていく必要があります。

今後は学生の一部が卒業し社会人へとなる中で、その活動の主体が移り変わっていきます。学生から社会人へとなることで、異なる視点をもって活動に参加できるようになり、また新たに参加する学生との交流により、モノづくりを通してコミュニティは続いていきます。

空き家活用を通じて島嶼部におけるサステナブル建築を目指し、またメンバーが集うことのできるバを構築していくモノづくりコミュニティを目指していきます。



★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

マツダ財団の皆様、この度は、島会議に対して助成金をご支援いただき、誠にありがとうございました。今回の助成団体は 2 団体であり、複数団体での交流は実現できませんでしたが、定期的なミーティングや若ツナフェスタ、サミットを通して交流を深めることができ、良いつながりを持つことができました。ミーティングの際に中々メンバーの都合が合わず、固定メンバーでの参加となってしまったことが悔やまれます。

また、助成金を受け取る際の銀行口座作成に時間がかかり、受け取り時期を延ばしてもらい夏ごろになってしまいました。申請はかなり複雑なものでしたので、設立から時間が経っていない団体の場合は早めに申請することが必要だと感じました。

今回の支援をいただき、普段他の活動を行う方々とお話をする機会はないため、本当に貴重な機会となりました。オンラインだったため、参加はしやすかったのですが何回かに一度は対面でミーティングができるとより楽しく交流ができるのではないかと思います。